

豊かなウォーターフロント2016

フォトコンテスト 海とみなと— その役割・防災・歴史・観光

本コンテストは、写真を通じて海辺や港の四季折々、津々浦々の姿を表現していただき、ともすれば港と疎遠になりがちな方々に対してその素晴らしさを再認識していただくと共に、ウォーターフロントの景観への意識を高めることを目的としています。

今年で25回目の本コンテストは、「海とみなと—その役割・防災・歴史・観光」というテーマに414点もの応募がありました。いただいた作品に対して平成28年10月24日に厳正なる審査を行った結果、次のとおり素晴らしい入選作品を決定させていただきました。

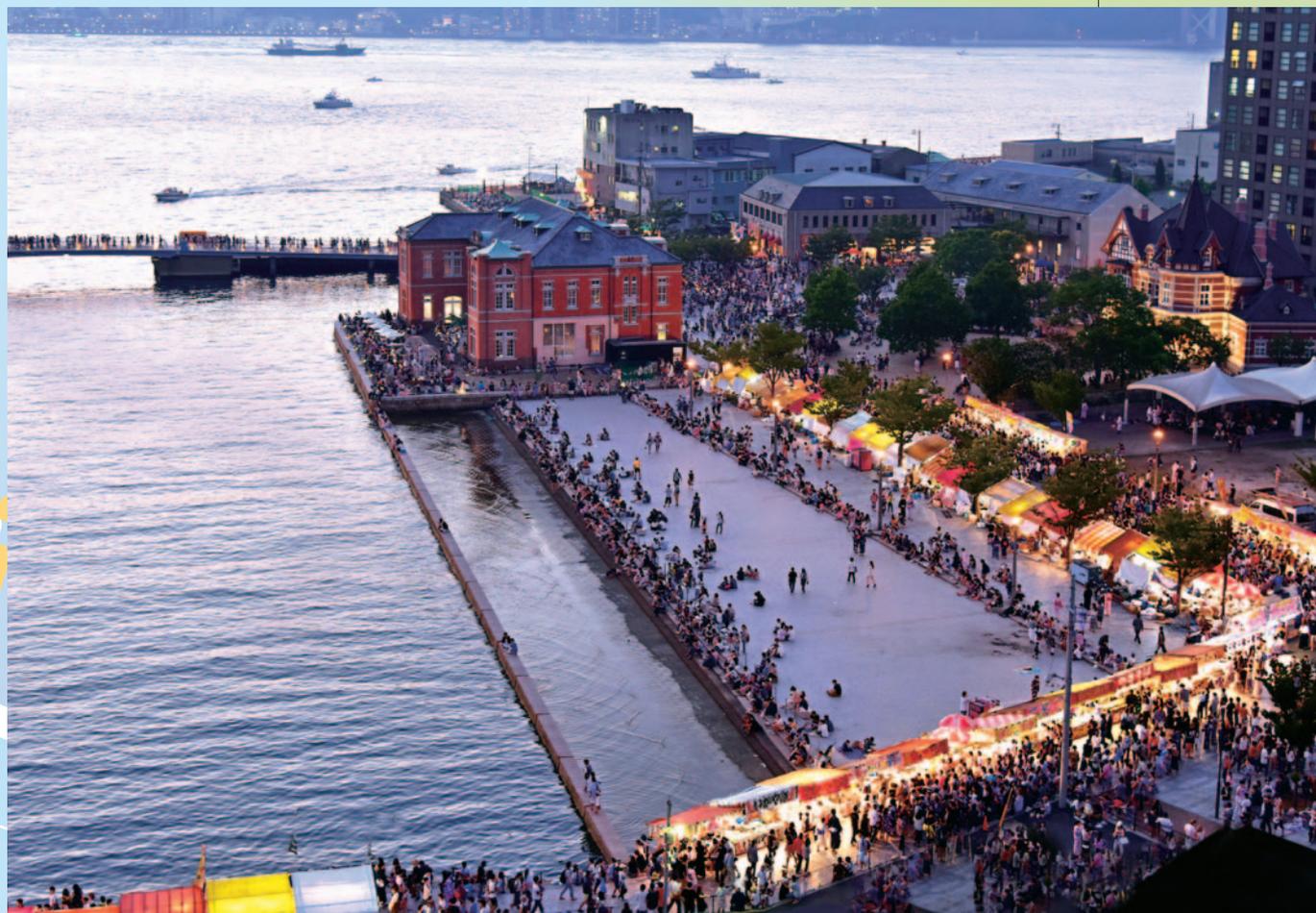


最優秀賞
国土交通大臣賞
河野 勉
花火大会の日
門司港

総評

今回は、不順な天候のせいでしょうか前年よりも応募作品が少し減っています。晴れた日のほうが気分もよく撮影もしやすいのは確かですが、それとシャッターチャンスは別問題。悪天候のほうが普段と違った光景が写せる、といった積極性が新しい被写体の発見に繋がります（とはいっても、危険は避けなければなりません）。天候の違いは光の違い、光によって物の見え方が変わるというのが写真の醍醐味です。また「例年」という言葉が使えなくなるほど気候の変動が激しいのならば、それを記録するのも写真の大切な機能です。

実際問題として、陸から海を写すことになるという制約のある本コンテストですが、にもかかわらず応募作品のレベルは年々上がっています。ただ、部門別に見ると防災・歴史部門は応募数も少ないので、今回は注力していただければと思います。



撮影者の河野さんの地元、北九州市門司区と下関市で開催される関門海峡花火大会。興味を引きやすい花火を写すのではなく、花火大会の一幕を写すというねらいが素晴らしい。ランドマークであるレンガ造りの旧門司税関から続く露店の灯りと、海風に吹かれながら花火を待つ人々の姿を高所から俯瞰でとらえています。2016年で第29回を迎えた夏のイベント、花火を待つ親水広場の雰囲気・空気感が、夏の夕刻の沈んだトーンによって見事に表現されました。



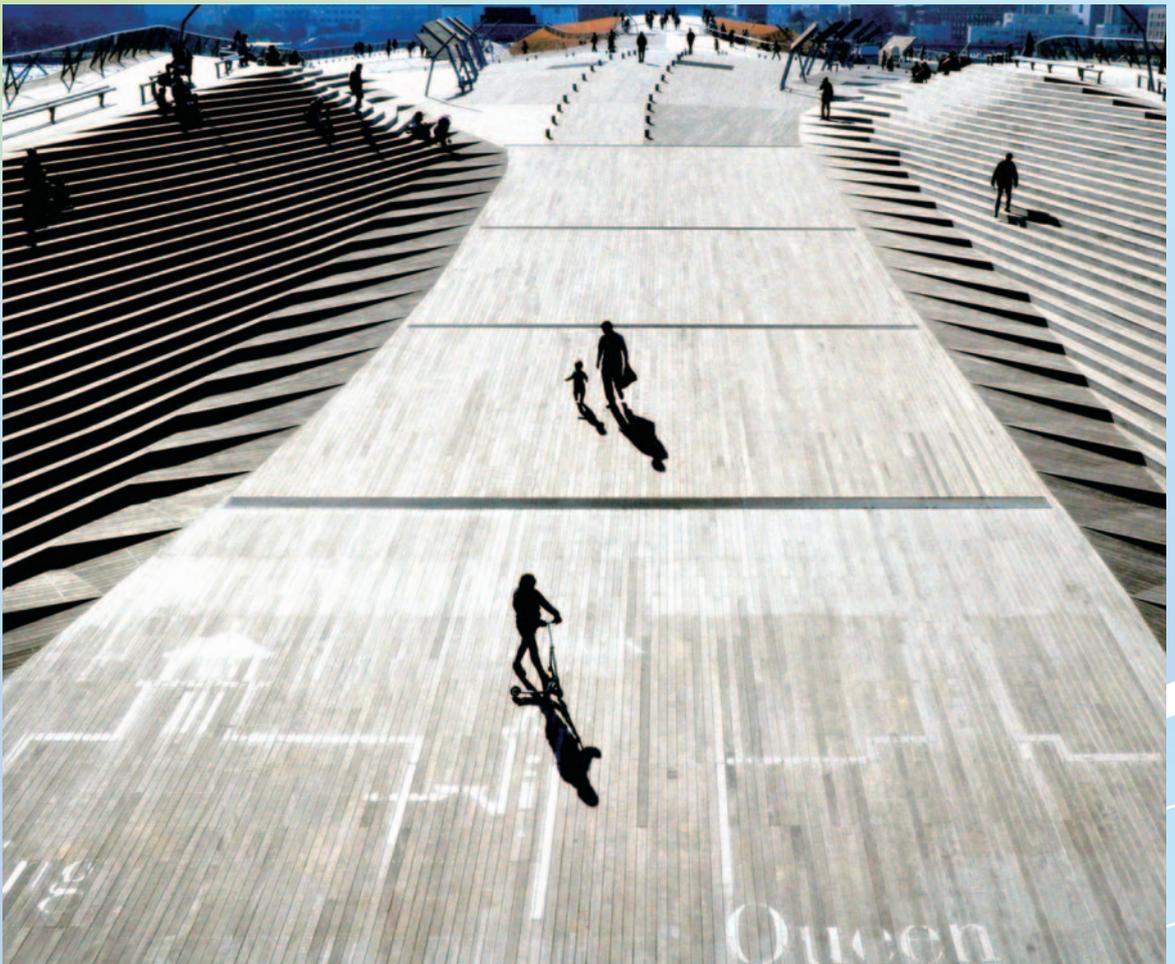
佐藤 孝 大阪港
 暮らしを支える港
 国土交通省港湾局長賞



2017年に開港150年を迎える大阪港は年間2万数千隻が入港、約8千万トンの貨物が入り出す交易港です。これも高所からの俯瞰撮影。絞り込んでパンフォーカスで描くクリアな画面、光に満ちた都会の夜景が端正な構成によって際立っています。また埠頭のナトリウム灯のオレンジ色、街の蛍光灯の薄緑色との対比も効果的です。



清水 進 横浜港
 ホリデイ
 (公社)日本港湾協会会長賞



大型客船が着岸する横浜港の大さん橋の「くじらのせなか」と呼ばれる屋上のウッドデッキです。人出の少ない冬の日、快晴の強い光を反射して白々と光るデッキと、好対照をなす人々のシルエットとその陰が、現実の光景をペーパークラフトのように見せて印象的です。手前、中央、右上とシルエットの位置・形ともに秀逸です。





三重県四日市市、稲葉翁記念公園にある潮吹き防波堤のレプリカ。旧四日市港に築かれた堤の特異な構造を再現したものです。消波技術を見せるために実際に起こした波が右から堤に寄せ、波抜きの穴から前の波が左に行くちょうどよいタイミングをとらえています。シャープな質感描写によって、堤の構造や存在感が際立ちました。



港湾海岸防災協議会長賞
 築田和雄 稲葉翁記念公園
潮吹き防波堤レプリカ



佐賀県唐津市、海を渡る山笠として有名な小友（こども）祇園祭。八坂神社で悪疫退散を祈願したあと、高さ15メートル、重さ3トンの山笠が小友漁港にて海を渡ります。今や祭りには欠かせないアマチュアカメラマンや、大きな山笠と若衆を縦画面で過不足なくとらえて雰囲気十分、背景に写り込んだ小友の港と町が長閑なハレの日を感じさせます。



観光・イベント部門賞
 長谷川裕二 小友漁港
海を渡る山笠と男衆



中村博 門司港レトロ
SWIM AND RUN
 観光・イベント部門賞



北九州市門司港レトロスクエア・スイム&ランにて。1キロのスイムの力泳をとらえたものでしょうか。画面の上1/4ほどを占める見物客の緊張感のない姿と、数メートル下の水面で繰り広げられるレースの緊迫感の対比が見どころといえます。赤、黒、青のキャップ、掻腕き、上白げいた水しぶきが高速シャッターで写し止められ、臨場感を高めています。



小形俊幸 横浜港
レインブルーニ人の横浜
 景観部門賞



横浜港、サークルウォーク辺りから赤レンガパーク方向を写したのでしょうか。小雨に霏がかかっているのか、滲んだ灯りが港情緒を盛り上げています。また高い色温度によって青味がかった景観に電灯の暖色の対比も美しく、湿度感も十分。赤レンガ倉庫と、その後ろに見える大さん橋に接岸した大型客船、ミナト横浜を見事に表現しています。





景観部門賞
瀬戸の夕景

横山雪子 父母ヶ浜海岸



香川県三豊市、父母ヶ浜（ちちぶがはま）海岸。遠浅の海岸が1キロほど続く「日本の夕陽百選」に選ばれた美しい瀬戸内の夕照撮影スポットです。日没時、空の反映でまだ明るい海面、暗く沈んだ陸地と島々、町の灯りと車のライトが風景に温もりを感じさせます。干潮時、砂浜の砂紋に残った水たまりの様相がよいアクセントになりました。



景観部門賞
高松港夕景

石角尚義 高松港



高松港のシンボル、赤灯台です。港を守る玉藻防波堤自体も、港内の水質悪化を防ぐ海水透過式ですが「せとしるべ」という愛称を持つこの灯台は世界初のガラス製。望遠レンズで端正に切り取った画面構成に加え、灯台の赤い光と日没後の青味がかかった景観との色彩の対比が見事。通過する船のスローシャッターによるぶれ描写も効果的です。



川崎信義 長崎港
「休み時間」
仕事部門賞



長崎造船所のドックでしょうか。艦尾デッキにいる人々の小ささからすると、10万トン超の豪華客船のようです。青味がかかった色合いには少し違和感がありますが、超望遠レンズの特性によって遠近感が圧縮され、巨大な船体の塊感が強調されています。大きくプリントすると、一休みする人々の姿がハッキリしてタイトルが納得できます。

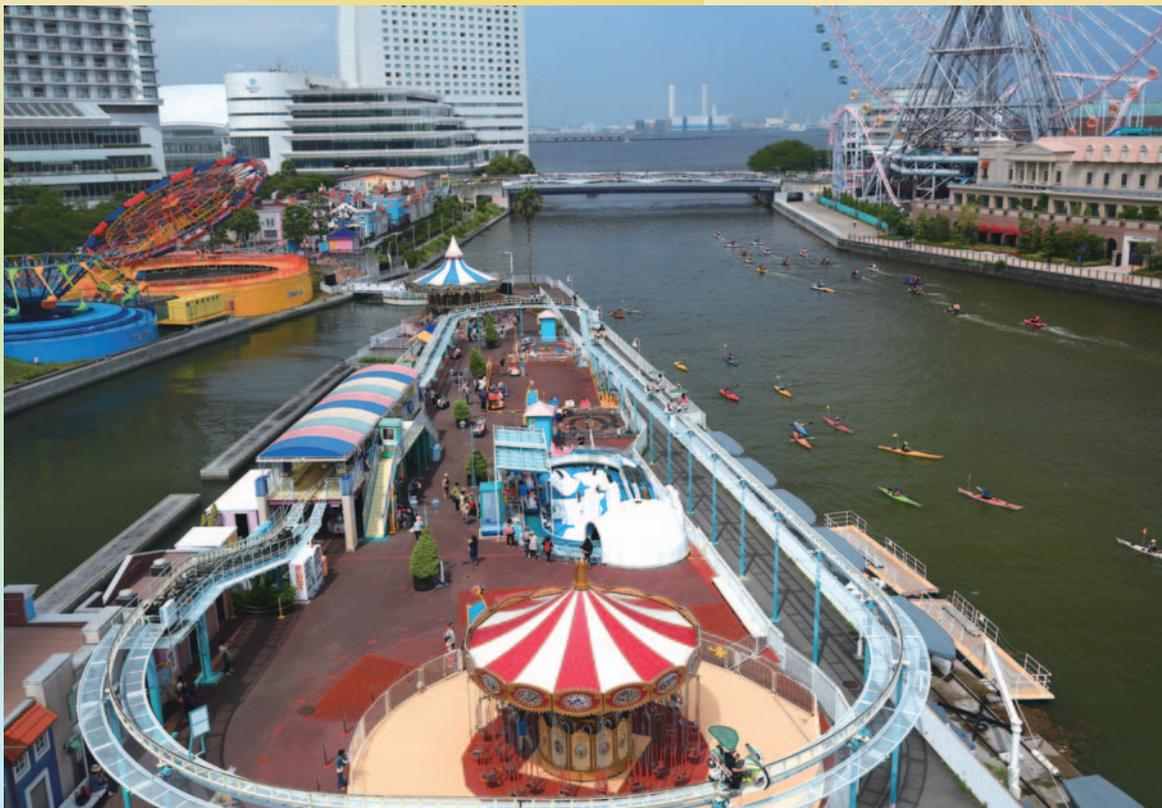


白石信夫 宇和島湾
最後のひと桁
仕事部門賞



愛媛県の宇和島市街と、対岸にある九島を結ぶ468メートルの九島大橋。今年の4月に開通しましたが、これは2015年10月に行われた架設工事の様子でしょうか。岸から超望遠レンズで写しているため、100メートル以上もある桁が短く写り、向こう岸も近いように感じてしまうのは少し残念です。しかし、その分だけ細部がハッキリと写り、大工事の貴重な記録ともなっています。





横浜港の日本丸の近く、よこはまコスモワールド内のキッズ・カーニバルゾーン。隣の建物から俯瞰したのでしょうか、遊具の鮮やかな色彩を取り入れて、遊園地の三つのゾーンを上手く見渡しています。加えて、カラフルさでは負けていないカヌーや水上バイク（PWC）もタイミングよく取り込んで、都会の「楽しい港」風景となっています。



運河部門賞
片山和澄 横浜港ピア運河パーク
運河に浮かぶ遊園地



歴史部門賞
江尻敏子 端島
海上要塞



長崎港の南西約17.5キロに位置する端島（はしま）、世界文化遺産の軍艦島です。海底炭鉱として栄えた往時を偲ばせる密集した建物、四周を取り囲んだ護岸堤防を画面いっぱいにとらえています。ややトップヘビーですが確かに「戦艦」を思わせるシルエット、モノクロームの画面で色彩情報を省略したことで、廃墟のイメージがより増幅されました。



飯田直暉
三保真崎海岸
寒稽古
小学生・中学生部門賞



静岡県三保の真崎海岸で行われた、拳正会空手道連盟による新年恒例の寒稽古。晴れ渡った青空にくっきりと姿を見せる富士、海にぽっかりと浮かんでいるような貨物船を背景にして、突きの稽古をする姿がタイミングよく写し込まれています。寒稽古には違いないものの、なぜか子供たちの姿に長閑さを感じてしまう正月風景です。



今回も、多くの作品が上位の賞に選ばれずに優秀賞に留まりました。その差はわずかなのですが、類似作品の中から1点を選択する基準になるのは、

- 以前のコンテストで同様の被写体が入賞している場合→違う視点か
- テーマ（写したかったこと）が明解に表現されているか
- 撮影技術の的確さ
- プリントの品質

といった点です。撮影技術の中でいえば、フレーミングの甘さがマイナス要因になります。またプリントの品質では、色調の偏り（かぶり）、彩度の上げすぎが気になる作品がありました。優秀賞は「あと少し」ということから、方向性を変えるのではなく、次回はより表現方法を磨いてご応募ください。



横須賀 洋
帰航
永代橋
観光・イベント部門



加藤誠司
明石海峡大橋の下で
舞子海岸
観光・イベント部門



豊かなウォーターフロント2016 フォトコンテスト



小椋利昭

輝く風の中で

千葉港
観光・イベント部門



高橋康資

出航

横浜大棧橋
観光・イベント部門



平野昌子

海へ感謝

江ノ島海岸
観光・イベント部門



有田勉

記念写真

藤原埠頭
観光・イベント部門



山本健太郎

進水式

矢野造船所
観光・イベント部門



佐々木吉治

イカ釣り船団出港の日

酒田港
観光・イベント部門



小木曾和巳

大物ゲット
重寺港
景観部門



井門康栄

誕生の裏方たち
檜垣造船
観光・イベント部門



垂秀夫

眠りつく漁港
飯岡漁港
景観部門



山崎秀司

ホーエンヤ祭り
賀露漁港
観光・イベント部門



古屋治

未来へ
横浜港
景観部門



藤原敏明

尾道水道の航跡
尾道水道
景観部門



佐伯範夫

何処へ
境水道
景観部門



樋口徹

Welcome Tokyo
東京港
景観部門



豊かなウォーターフロント2016フォトコンテスト



飯田忠雄

夜明の清水港

清水港
景観部門



吉野宏映

憩いのひととき

横浜港
景観部門



池ヶ谷二人

雨上がりの入港

三保・真崎
景観部門



矢野正樹

歓迎と夏雲高く

神戸ポートターミナル
景観部門



西山敦

初入港

新潟東港
景観部門



塩崎信好

海峡の春

糸山海岸
景観部門



山台雄三

満月の海峡

来島海峡
景観部門



小高紘佑

白波たてて

相模湾
景観部門



間瀬幾雄

コンテナ積み込み

東京港青海埠頭
仕事部門



藤原利忠

海と川の間

着社川の河口
景観部門



坂本泰男

躍動の港

川崎港
仕事部門



大高久昌

瀬戸大橋展望

備讃瀬戸
景観部門



石村國男

埠頭の朝

博多臨港
仕事部門



薬師正興

薄暮

南港
景観部門



豊かなウォーターフロント2016 フォトコンテスト



多和裕二

扇橋開門クルーズ

扇橋開門
運河部門



日沖篤郎

ゴンドラは楽し

堀川
運河部門



米倉辰雄

港を守る

横浜港
防災部門



高橋一吉

只今造船中

神戸港
仕事部門



浅見崇司

clean view

神戸港
仕事部門



岡本芳隆
海のキリンたち
眺ふ頭を海上より
仕事部門



北山隆一
初夏の葦毛崎展望台
種差海岸
歴史部門



武内勇雄
毒ガス貯蔵庫
大久野島
歴史部門



根本義弘

緊迫の訓練

晴海埠頭
防災部門



小澤宏

固唾を呑む

横浜港
防災部門



国土交通大臣賞 (最優秀賞)

河野 勉 (門司港)

国土交通省港湾局長賞

佐藤 孝 (大阪港)

(公社)日本港湾協会会長賞

清水進 (横浜港)

港湾海岸防災協議会長賞

築田和雄 (稲葉翁記念公園)

観光・イベント部門賞

長谷川裕二 (小友漁港)

観光・イベント部門賞

中村 博 (門司港レトロ)

景観部門賞

小形俊幸 (横浜港)

景観部門賞

横山雪子 (父母ヶ浜海岸)

景観部門賞

石角尚義 (高松港)

仕事部門賞

川崎信義 (長崎港)

仕事部門賞

白石信夫 (宇和島湾)

運河部門賞

片山和澄 (横浜港ピア運河パーク)

歴史部門賞

江尻敏子 (端島)

小学生・中学生部門賞

飯田直暉 (三保真崎海岸)

優秀賞

【観光・イベント部門】

横須賀洋 (永代橋)
加藤誠司 (舞子海岸)
高橋康資 (横浜大棧橋)
有田 勉 (藤原埠頭)
佐々木吉治 (酒田港)
小椋利昭 (千葉港)
平野昌子 (江ノ島海岸)
山本健太郎 (矢野造船所)
井門康栄 (檜垣造船)
山崎秀司 (賀露漁港)

【景観部門】

藤原敏明 (尾道水道)
樋口 徹 (東京港)
小木曾和巳 (重寺港)
垂 秀夫 (飯岡漁港)
古屋 治 (横浜港)
佐伯範夫 (境水道)
吉野宏映 (横浜港)
矢野正樹 (神戸ポートターミナル)
塩崎信好 (糸山海岸)
飯田忠雄 (清水港)
池ヶ谷一人 (三保・真崎)
西山 敦 (新潟東港)
小高紘佑 (相模湾)
藤原利忠 (菅社川の河口)
大高久昌 (備讃瀬戸)
薬師正興 (南港)
山台雄三 (来島海峡)

【仕事部門】

間瀬幾雄 (東京港青海埠頭)
坂本泰男 (川崎港)
石村國男 (博多臨港)
高橋一吉 (神戸港)

浅見崇司 (神戸港)

岡本芳隆 (眺ふ頭を海上より)

【運河部門】

多和裕二 (扇橋閘門)
日沖篤郎 (堀川)

【防災部門】

米倉辰雄 (横浜港)
根本義弘 (晴海埠頭)
小澤 宏 (横浜港)

【歴史部門】

北山隆一 (種差海岸)
武内勇雄 (大久野島)

主催

(公社)日本港湾協会
港湾海岸防災協議会
後援
国土交通省
協賛
(一社)日本旅客船協会
(一社)ウォーターフロント協会
(一社)日本外航客船協会
(一社)日本マリーナ・ビーチ協会
(一財)みなと総合研究財団
(一財)港湾空港総合技術センター
富士フィルムイメージングシステムズ(株)

審査員 (順不同・敬称略)

齋藤 潮 <東京工業大学大学院教授>
廻 洋子 <淑徳大学教授>
富岡睦草 <写真家>
松野正雄 <写真家>
逸見 仁 <写真家>
村岡 猛 <国土交通省港湾局海岸・防災課長>
佐々木 宏 <国土交通省港湾局海洋・環境課長>
須野原 豊 <(公社)日本港湾協会理事長>